

令和3年度 おへそ保育園 振り返り評価シート

評価方法 1・・・実践することができなかった 2・・・実践することができた 3・・・より実践することができた

| おへその理念 | | 評価 | 魔法の言葉かけ 8つのポイント | | 評価 | |
|----------------------------|---|------------|-----------------|--|------|---|
| 1 | おへその理念を理解し、保育に取り組むことができる | 基本理念 | 3 | 1 子どもの悪いところより、いいところをたくさん伝える | 保育内容 | 2 |
| 2 | 自身の役割を理解し、法人のルールを遵守することができる | 運営管理 | 3 | 2 子どものできていないときより、できている時に声を掛ける | 保育内容 | 2 |
| おへそ流 保育のポイント21 振り返り | | | 項目別集計 | | | |
| 1 | 子どもと挨拶する時は、笑顔で名前を呼んで手や顔、頭に触れて、愛を伝え挨拶をします。また、子どもと教室や廊下ですれ違う時も一人一人へ笑顔で言葉かけを行います。 | 保育内容 | 2 | 3 褒められる行動を引き出し、褒める | 保育内容 | 2 |
| 2 | 子どもが泣いたり、不安そうにしたり、寂しそうに一人にいる時は「どうしたの」と声をかけて、子どもの声に耳を傾けます。 | 保育内容 | 2 | 4 行動の先の楽しい未来を伝える | 保育内容 | 2 |
| 3 | 集団を動かす指示命令ではなく、愛を持ってその子に必要な言葉を個別に伝えます。 | 保育内容 | 2 | 5 否定して動かすのではなく、具体的にどうしたらよいかを優しく教える | 保育内容 | 2 |
| 4 | 子どもを遠くから呼びつけたりせず、大きな声より、そばに行っても伝わるボリュームで優しく小さな声を使います。 | 保育内容 | 2 | 6 問いかけ・対話を大切にします | 保育内容 | 2 |
| 5 | 「あー」「もー」「ほー」「なんー」等、自分の感情ではなく、子どもの心を優先した声かけ、保育を行います。 | 保育内容 | 2 | 7 一呼吸おいて、相手を自分自身に置き換えて、言葉を選んで発する | 保育内容 | 2 |
| 6 | 食事の際は、注意や指示よりも、子どもとの対話を優先し、安心した環境の中で食事を楽します。食事のマナーについては丁寧に教えます。 | 保育内容 | 2 | 8 近くに行って、その子に伝わるボリュームで伝える | 保育内容 | 2 |
| 7 | 子どもが安心して眠りに入るような温かい雰囲気でお昼寝を行います。お昼寝は強制しません。子どもが寝たくない時は別のお部屋で遊ぶことを許可します。 | 健康 | 2 | <div style="text-align: center;"> <p>項目別集計</p> <p>1 理念基本方針 3</p> <p>2 運営管理 3</p> <p>3 保育内容 2</p> <p>4 保育の計画及び評価 2</p> <p>5 子どもの健康支援 2</p> <p>6 環境及び衛生管理 2</p> <p>7 事故防止及び安全管理 2</p> <p>8 職員の研修 2</p> </div> | | |
| 8 | 排泄を強制したり、失敗を叱ることはしません。おむつ替えの際は、子どもが安心して、気持ちが良いと感じるよう声をかけます。 | 健康 | 2 | | | |
| 9 | 子どもの小さな成功にも心からの拍手と賞賛を送ります。一方、失敗を叱ることはせず、挑戦した過程を称えます。 | 保育内容 | 2 | | | |
| 10 | 指示命令で子どもを整えようとするのではなく、子ども自ら整う(動く)まで待つてあげます。また、子ども自ら遊び、自ら考え、自ら動き、自ら学べる環境構成に力を入れます。 | 環境 | 2 | | | |
| 11 | 指示命令ではなく「どうして思うの?」「どうしたらできると思う?」と質問を多用し、子ども自らの行動を促します。また、「～したら、～できないよ」という否定語ではなく、「～したら、～できるよ」という肯定語を使います。 | 保育内容 | 2 | | | |
| 12 | 子ども同士の喧嘩やトラブルは、ケガの危険性がある時以外は、介入し過ぎることなく、子どもたちが解決できるためのサポートを行います。 | 事故防止及び安全管理 | 2 | | | |
| 13 | 普段の保育の中で、子どもが考える力を養えるよう、保育者が答えを出すのではなく「子どもに考えさせる」ことを大切にします。指示だけではなく、子どもたちに行動の趣意説明を丁寧にを行います。 | 計画及び評価 | 2 | | | |
| 14 | 子どもの興味、関心をよく観察し、子どもの心に沿った保育、活動を行います。 | 計画及び評価 | 2 | | | |
| 15 | 子どもの行動は間違っているのではなく、適切な行動に気づいていない、若しくは、適切な行動ができるまでの力がまだ身に付いていないと捉え、プロセスに焦点を当てて、適切な行動に向うための発達支援、サポートを行います。 | 計画及び評価 | 2 | | | |
| 16 | 自分を傷つけること、人を傷つけること、命に関わること、人の尊厳を軽視することには、愛を込めて本気で叱ります。 | 事故防止及び安全管理 | 2 | | | |
| 17 | 子どもたちに毎日の当たり前がとて幸せなことだと伝わるよう、いつも笑顔で「うれしいね」「楽しいね」「幸せだね」とたくさん声をかけます。 | 保育内容 | 2 | | | |
| 18 | 保育者自身が世の中の様々な「違い」「多様性」を楽しみ、受け入れながら、当たり前を常に疑い、先入観を持たず、柔軟な思考、行動を心がけ、子どもたちと接します。 | 保育内容 | 2 | | | |
| 19 | 子どもの見本となる丁寧な言動を心がけ、礼節を重んじて保育します。 | 保育内容 | 2 | | | |
| 20 | 子どもが話を聞かない、集中しないのは、私たちが魅力的な人間、魅力的な保育、伝え方ができていないこととして捉え、「静かにしなさい!」という言葉を使わず、自身を見直します。 | 計画及び評価 | 2 | | | |
| 21 | 保育者としてだけでなく、人間としての魅力を伸ばし、子どもたちに憧れられるような大人を目指し、本をよく読み、よく考え、学び続けます。 | 環境 | 2 | | | |

総評

昨年度に比べて、保育に関する様々なイベントを開催することができた。保護者からも子どもの成長を見ることができる機会があり、とても感動したとの声をいただくことができた。送迎の時間に保護者と積極的にコミュニケーションをとり親身な対応を心がけ、保護者との信頼関係を築くことができた。

改善点

職員が自己研鑽できる時間をつくる。子どもが自ら選択できる保育環境を充実させる。保護者と関わり、時間を増やす(クラスイベント)を企画し、信頼関係を深める。